

タイトル：なりたい自分

学校名：北海道函館中部高等学校

学科：普通科

学年：1年

氏名：菅原留奈

憧れのロサンゼルスに行ける。学校でロサンゼルスホームステイプログラムの掲示を見た時、幼い頃からの夢が叶えられるチャンスが来たことに胸が高鳴った。また両親にこんなことを言われたことを思い出した。

「物事を考える時は広い視野で考えなさい。」

広い視野とはなんなのか。どうしたら広い視野で物事を考えられるようになるのか。1つの方法としてこの疑問の答えは、アメリカに行ったらわかることではないかと思う。

今回このプログラムに参加できるならば、掴み取りたいことが4つある。

1つは、英語で会話することによって語学力とコミュニケーション能力を伸ばしたい。私は英語を話すことが好きで今年の春に ESS という英語の部活に入った。入った当時は自分の英語のできなさに失望した。しかし、初めて出場したプレゼンテーション大会で、英語が相手に伝わり理解してもらえる喜びやうれしさ、相手の内容が聞き取れることの面白さを知った。同時に、英語で相手に伝える難しさや質問に即座に答えられない悔しさも知った。それは語学力の問題だけでなく、今までの経験の厚みが足りないからだと確信している。もっとたくさん経験を積む必要がある。実際に現地の方々と話しをして刺激を受けることで、自分の考えが深まり、最終的には発想し発信する力につながるのではないか。また、50年後には、今ある職業の半分がなくなるといわれている中で、想像力とコミュニケーション能力がとても重要になると思う。高校生のうちにそういった力を伸ばし、5年後、10年後を見据えた行動をできるようになりたい。そしてどこの世界でも通用し、人や社会に貢献できる人になりたい。

2つ目は、多文化社会で生活する大変さを知り、それに対応できる力を身に付けたい。多くの人種が住むアメリカだからこそ多文化社会を経験する最も良いチャンスだ。私が海外に興味を持つようになったのは両親の影響がある。幼い頃からホームステイやそこでの生活について聞くうちに、憧ればかりが大きく膨らんだ。育った環境が違う私が、宗教や文化背景、価値観の違う国で生活するのは難しい事だろう。しかしそれらを避けるのではなく、その人や国を理解し尊重して、一緒に生きていける、そんな人間に私はなりたい。実際にアメリカへ行って多文化の中で生活するとはどういうことなのか、自分がどのように人とかかわっていけるのか、未知なる世界に挑戦していきたい。

3つ目は、弱い自分を変えたいということだ。

小学六年生の時に突発性思春期側彎症という脊柱が左右に曲がってしまう病気だと診断された。現在も治療中で側彎症用のコルセットを1日中つけながら生活している。そのた

め、コルセットを理由に、やるべきことや挑戦するべきことから避け、両親に頼ってしまうことが多くなった。できたかもしれないことを、この体を理由に逃げてきたかもしれない。このままでは「ダメ」だと高校生になって気付いた。両親や友達に甘えられない環境の中で自立した高校生になれるのだと証明したい。今回のプログラムに参加する際にはコルセットを日本に置いて行って良いと主治医には言われている。弱気になっていた、どこか甘えていた自分をリセットし、大きな一歩を踏み出したい。その経験を、自分の将来を切り拓くための自信と勇気にしていきたい。

4つ目に、ホストファミリーや現地の方々に、日本人に対して良い印象を持ってもらうという目標がある。今私のクラスにはカナダからの留学生がいる。彼女は、とても大きな存在の一人だ。それは、彼女が、素直で彼女自身の意見を持ち、たくさんの物の見方を教えてくれた人だからだ。たくさんのお話をすることで、彼女の国にも興味を持った。カナダ人に、優しく、おおらかで、真面目な人という印象をもった。彼女が私にしてくれたように、関わった人に少しでも日本という国に興味を持ってもらいたい。そのためには、日本人の代表として自分をしっかり持ちそれを伝えられること、周囲の人を思いやり、笑顔にさせたり、一緒にいて心地よい気分になせられることができれば嬉しい。帰国後は、私を通じて学校の友達や周りの人々がアメリカを知ることができればさらに良いと思うし、自分の良い変化をどんどん周囲にも伝えていきたい。

今回このプログラムに参加し、これら4つの目標が達成できたら、「物事を考える時は広い視野で考える」という両親の言葉の意味がわかるだろう。今までの自分がどこまで通用するのか挑戦し、日本人として語れることを増やしたい。また、グローバル社会の中で、人種や国境に関係なく人に良い影響を与えられる潔い人になりたい。その思いを胸にこのロサンゼルスホームステイプログラムに大きな期待を寄せている。